

中国語語気助詞「嘛 (ma)」による因果関係の提示

—情報のなわ張り理論を用いる考察—

王瓊

wangqiongcarolyn@yahoo.co.jp

キーワード：語気助詞 コーパス 情報のなわ張り理論 因果関係

要旨

本稿では、対訳コーパスから「嘛 (ma)」の用例を集め、情報のなわ張り理論を用いて中国語語気助詞「嘛 (ma)」について考察を行う。対応する日本語訳の文末表現に見られる特徴から、その前後文脈において広義の「因果関係」が存在することがわかる。中国語原文にも似たような特徴が見られ、接続表現の有無に関わらず用例の八割ほどが「因果関係」と関連することもわかった。また、情報のなわ張り理論を用いて情報と話し手 (S) または聞き手 (H) との距離で四分類すると、「嘛 (ma)」が話し手に〈近〉と判断される情報と共起しやすく、情報と聞き手の距離は「嘛 (ma)」の使用にはあまり関与しないことがわかった。「嘛 (ma)」をつけることによって文の表す情報が話し手の〈近〉情報であるかのように提示していると考えられる。

以上を踏まえ、「嘛 (ma)」を「前後の文脈と主に因果関係で結ばれることを、話し手が主観的に把握していることを示すマーカー」とであると主張する。

1. はじめに

中国語語気助詞¹「嘛 (ma)」は、「当然である」や「言うまでもない」という語気を表すとされる。例えば、Chao (1968) に “dogmatic assertion: ‘you should know’, ‘don’t you see?’”²、呂 (1980) に「表示事情本应如此或理由显而易见 (本来こうあるべきだ、あるいは事情・理屈がはっきりしていることを表す)」、張 (2010) に「表示事情或道理显而易见, 无须多言 (事情または理屈が明確で、言うまでもないことを表す)」との記述があり、香坂 (1982) にも「理から言って当然そうである語気を表す」などの説明がある。

本稿では、この「嘛 (ma)」を前後文脈と関連づけ、その語用論的な意味について分析を試みる。コーパスデータに基づき、情報のなわ張り理論の観点から語気助詞「嘛 (ma)」で

¹ 語気は文の表す事態に対して話し手の態度である。語気助詞は「語気詞」とも呼ばれる。朱 (1982) によれば、語気助詞は後置虚詞 (機能語) であり、常に軽声で発音される。

² Chao (1968) において「噯」と表記されるが、「嘛」と同じものである。

マークされる情報の特徴について考えるので、コーパスの用例に見られる傾向をまとめた上、情報のなわ張り理論を用いて語気助詞「嘛 (ma)」の使用の動機付けについて考えたい。

2. CJCS コーパスにおける「嘛 (ma)」の用例

CJCS コーパス³に収集される中国語の作品データで「嘛 (ma)」を検索し、検索結果から会話的なものだけを取り出した。疑問詞「干嘛 (どうして)」や名詞「喇嘛 (ラマ)」など考察対象ではないものを取り除いた 283 例から、本稿の考察対象ではない例 (呼びかけや応答に使う「嘛 (ma)」の例など) を除いた 193 例を分析に当て、「嘛 (ma)」の意味を検討するために日本語訳を参考にした。

2.1. 対応する日本語訳の文末形式の特徴

「嘛 (ma)」に対応する日本語表現には以下の傾向が見られる⁴。1) コーパス上では、日本語の「か」で訳される疑問形式とされる 36 例のほとんどが日本語の「ジャンイカ」に対応する。否定文と共起する「嘛 (ma)」が 8 例あったが⁵、以下のように肯定文に「嘛 (ma)」をつけるものがとても多かった。

(1) 何荆夫 这样 的 态度 很 好 嘛!
人名 このよう の 態度 とても 良い ma⁶
(何荆夫の態度はなかなか立派じゃないか。⁷)

(2) 你 是 捞渣 的 大 嘛!
あなた だ 捞渣(あだ名) の 父親 ma
(捞渣の父ちゃんじゃないか。)

2) 「… (だ) から」、「…ので」などの理由を表す文に対応し、その場合には結果を表す後続文が省略されても不自然には感じない。例えば、理由を言ってから自分の推測を述べる例 (4) もあり、逆に自分の帰りについてコメントしてから理由を述べる例 (5) もある。

³ 北京日本学研究中心が開発した CJCS コーパスを使用する。コーパス自体はネットで公開されておらず、CD で販売されている。中国語の原作で検索をかけ、それに対応する日本語訳を整理して分析データに当てる。

⁴ 2018 年度中国語学会で口頭発表の内容に基づく。王 (2018) を参照されたい。

⁵ 否定文 8 例のうちの 5 例が反語文であり、否定形式「不」と「嘛 (ma)」が共起するものであった。例えば、

(3) 不能那么说。歪嘴子不是个特殊人物嘛!
(そうは言わん。『口まがり』は特殊な人物じゃねえか!)

⁶ 語気助詞のグロスにピンイン表記を用いることにする。

⁷ コーパスにある日本語訳をそのまま使用している。例 (1) の場合に、「何荆夫の今のような態度がいいのだ」と、積極的な評価というよりやや控えめなコメントのように考える。

(4) 发家 刚 开头 嘛, 我 看 快 啦, 这种
 儲かる 今 始まる ma 私 見る はやい la この種
 农户 少不了。

農家 少なくなれない

(なんせ身上作りもまだ取っ付きだから。まあじきにそういう農家が出てきますよ。⁸⁾)

(5) 不 回来 还 行。农民 的 任务 就 是 搞
 ない 帰ってくる まだ 良い 農民 の 任務 まさに だ やる
 好 农业 生产 嘛。
 よい 農業 生産 ma

(そんなことあるもんですか。農民の仕事は農業をちゃんとやることだから)

また、仕事の出来栄えを褒められ、そのような成功を収めることができた理由を述べるのに、例 (6) が用いられる。結果を表す後続文が省略されている。

(6) 那 是 谷 县长 亲自 抓 的 点 嘛。
 それ だ 谷(苗字) 県長 自ら 取り組む の ところ ma
 (それは谷県長が自分で取っ組んだからだよ⁹⁾。)

3) 「…だけど」や「…のに」などの逆接表現に対応することが多く、その場合には後続文はほぼ例外なく省略される。後続文のある例文は (7) のみであり、(8) は後続文が省略された例である。

(7) 电影资料馆 经常 放 嘛! 老韩 怎么 就 不
 映画資料館 常に 放映する ma 韓さん どうして まさに ない
 把 你 带去 看看 呢?
 持つ あなた 連れていく 見てみる ne

(映画資料館でしょっちゅうやってるのに、ご主人は連れてってこないんですか。)

(8) 我 记得, 陆大夫 刚 到 我们 医院 的 时候, 身体
 私 覚える 陸先生 ばかり つく 私たち 病院 の 時 体

⁸ 後述するように、雇用関係が自由になりはじめ、これから人を雇う農家が現れるという意味の発言である。

⁹ 谷県長が直接関わったことを意味して「亲自 (自ら)」と表現している。

很 好 嘛!

とても 良い ma

(ここへこられた時は非常に強そうだったが¹⁰⁾)

2.2. 因果関係の存在

日本語の「…(だ)から」や「…ので」などの表現は理由を表すとされる。日本語訳にこのような接続表現があるのに対して、中国語には接続関係を表す接続詞は使用されていない。しかし、例(4)で示されたように、前後の文の間に因果関係が存在する。専ら因果関係を表す代表的表現「因为 (because)」、「所以 (so)」を足しても自然な発話であることに変わりはない。

20世紀半ば頃雇用関係が自由になったばかりの時代を背景に、二人が政策の変化について会話する場面である。そのうちの一人が、「どこぞの村で人を雇ったというような話を、聞いてませんか?」と質問したのに対して、もう一人が下記のように返答する。

(4') 因为发家刚开头嘛, 所以我看快啦, 这种农户少不了¹¹。

(なんせ身上作りもまだ取っ付きだから。まあじきにそういう農家が出てきますよ。)

また、実家から遠い駅で仕事をしていた高さんが田舎に帰ってきて、地元の学校で働く于さんと会ってからの会話であるが、挨拶を交わした後、于さんに「駅でずっと働くんで帰ってこないと聞いていましたが」と言われ、高さんが(5)のように答える。「農民の仕事は農業をちゃんとやること」であるのを理由に「帰らなきゃだめだ」とその結論を于さんに伝える。接続表現を付け加えて(5')のようにも表現できる。

(5') 因为农民的任务就是搞好农业生产嘛, 所以不回来还行?

(そんなことあるもんですか。農民の仕事は農業をちゃんとやることだから。)

例(6)も同じように、「天門区はこの春、新しい局面を切り開いて勝利を収めたって。土地改革運動では成果を示し、今度も一番よ」と褒められると、それは谷県長のおかげだと謙遜な態度を示す。文頭に「因为 (because)」を入れても会話の流れは変わらない。

(6') 因为那是谷县长亲自抓的点嘛。

(それは谷県長が自分で取っ組んだからだよ。)

¹⁰ 「元気そう」との意味で「強そう」と訳されていると考える。

¹¹ 付け加える接続表現や内容を下線で表記する。日本語訳に理由を表す表現がない場合に、理由を表す文末表現をも付け加える。ただし、因果関係を表す中国語の表現に「因」を表す「因为」と「果」を表す「所以」を同時に用いられるのに対して、日本語の場合に理由を表す接続助詞「カラ」と結果節をマークする接続表現「だから」のいずれ一つだけにすることが一般的である。

日本語訳に理由を表す表現がなくても理由と読める場合も多く存在する。「嘛 (ma)」でマークされる中国語文が前後文脈とよく因果関係¹²で結び付けられることがわかる。日本語の「ジャーナカ」に対応する例文 (1) と (2) からも逆接表現に対応する例 (7) と (8) からも因果関係が読み取れる。例えば、文化大革命でひどい目に遭わされた何さんについて親子が言葉を交わす例である。今はその何さんが威信を回復しているが、淡々と学校の事務の仕事をしている。学生である息子が尊敬すべき人の例として何さんを挙げると、官僚である父親は彼のやり方をえらいとは思わず、ふさわしい態度なのだとは少し違う意見を示し、例 (1) のようにコメントする。さらになぜ何さんの今の態度が良いと思ったのかについても説明しようとして話を続ける。

(1') 何荆夫这样的态度很好嘛!

事物 都 是 一分爲二 的。我 們 對 他 搞過了頭，
物事 すべて だ 二分化 の 私たち 對して 彼 やりすぎた
這 是 一方面； 可是 另一方面， 他 也 确实 有 錯誤。
これ だ 一方 しかし もう一方 彼 も 確か ある 誤り

(何荆夫の態度はなかなか立派じゃないか。だが¹³、物事はすべて正反両面から見なければならぬ。われわれは彼に対してやりすぎた、これが一面。反面、彼に誤りがあったのもたしかだ。)

また、記事に自分のことも書かれていると知って、「提我干啥，怪没趣儿的。(なんで僕のことなんか書いたの？つまらないのに)」とコメントする鮑さんに、記事を読み上げている人がその理由として (2') のようにことばを返す。

(2') 你是捞渣的大嘛! (=2)

(捞渣の父ちゃんじゃないか。)

前節で挙げた逆接表現の例にも因果関係が含まれると解釈可能である。例えば、自慢話を続けてきた話し手が、映画タイトルを全く知らない相手に対して、さらに映画のタイトルを挙げ、例 (7) のように話を続ける。「映画資料館でしょっちゅうやってる」との理由を提示し、聞き手は「見たことあるはず」もしくは「知っているはず」との含意を聞き手に示す。しかし、聞き手は実際「知らない」という事実を知らされ、その事実が話し手の推論と反すため、「ご主人は連れてってこないんですか」と問う。

¹² 本稿では、「原因と結果」、「理由と帰結」を区別せず広義の因果関係という意味で「因果関係」という用語を用いる。

¹³ 原文には「だが」に対応する接続表現はない。

(7') 电影资料馆经常放嘛！老韩怎么就不把你带去看看呢？ (= (7))

(映画資料館でしょっちゅうやってるのに、ご主人は連れてってこないんですか。)

後続文が省略されているが、例 (8) も同じように解釈できる。自分の勤務する病院で倒れ、そのまま入院した陸先生の同僚である二人の医者が陸先生の体調をチェックしながら会話を交わす。そのうちの一人が、陸先生が「衰弱している」とコメントした後、例 (8) のように付け加える。この語気助詞を使うことによって、「以前は強くて健康な体」であったため「倒れるはずはない」という推論と、「今は衰弱している」という現状の違いを表現している。

(8') 我记得，陆大夫刚到我们医院的时候，身体很好嘛！ (= (8))

(ここへこられた時は非常に強そうだったが！¹⁴)

2.3. その他の因果関係提示

前節に挙げた「ジャナイカ」、理由を表すもの、逆接表現以外の例もある。例えば、

(9) 庄稼人，地 是 根本 嘛。

農家の人 土地 だ 基本 ma

(百姓じゃ畑が命よ。¹⁵)

前後の文脈を見れば (9') のようになる。劉さんのお家で事情があって蒔付けが遅れていることを心配し、手伝ってあげたいと考える息子が父親に話を持ち掛けてみる。劉さんたちが直面する難局について話し、「あの家の大人、子どもは今年、どうやっていくんだろうね？」と聞く息子に、父親が例 (9) のようにコメントし、息子の話がさらに続く。

(9') 父亲： 庄稼人，地 是 根本 嘛。

父親 農家の人 土地 だ 基本 ma

儿子： 好 多 人 都 替 他 家 着急

息子： とても 多い 人 みんな 代わりに 彼 うち 焦る

作难……

困る

(父親：百姓じゃ畑が命よ。

息子：村のもんはみんなヤキモキして…)

¹⁴ 「元気そうだったじゃん/のに/のだよ」のような意味を表現すると解釈できる。

¹⁵ 「百姓には畑が命なのよ」という意味の文である。

父親の言葉に接続表現の「因为 (because)」を付けても会話の流れは変わらない。「畑は命だから今じゃ大変だね」または「畑は命だから村のみんなも心配するでしょ」と父親の発言が理由になり帰結は聞き手である息子に委ねられる。

(9⁷) 父亲：因为庄稼人，地是根本嘛。

(父親：百姓は畑が命だからだよ。)

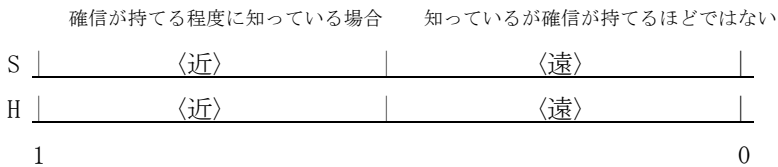
接続詞なしで理由を表す例も含め、「嘛 (ma)」でマークされる中国語文を前後の文脈との関連で考えると、193 例の 80%が因果関係を示すものである。

3. 情報のなわ張り理論で観察される「嘛 (ma)」の特徴

3.1. 情報のなわ張り理論について

神尾 (1990, 2002) では、話し手 (S) および聞き手 (H) と文の表す情報との間に一次元の心理的距離が成り立つものとし、完全に知っている場合は 1 で完全に知らない場合は 0 と表示する。情報と話し手および聞き手との関係は、最終的には話し手の認識ないし判断による。図にすれば、以下のようにまとめることができる。

図 1 情報の縄張り



情報と話し手の距離が〈近〉である場合に直接形が用いられ、情報と話し手の距離が〈遠〉である場合に間接形が用いられると、神尾 (2002) や楊 (1994) が述べている。しかし、神尾 (1990) によると、直接形は「確定的な断言の形を取る文形」で、間接形は「断言を避けた不確定な文形」であり、中国語に関しては楊 (1994) にあるように、直接的な表現は特別な伝達態度が含まれない命題で、間接的な表現は「聴説」、「～説」などの語句が含まれる文である。「直接形」及び「間接形」は明確に定義されていない。本稿は岩畑 (2010) が提示する修正案を参考に、「話し手あるいは聞き手の情報のなわ張りおよびその基準のみ設定し」、その枠組において語彙や文の意味によって情報のなわ張り関係を考える。神尾 (1990) の四分割モデルを使用し、神尾 (2002) を基準になわ張り判断を行う。

神尾 (1990) によれば、情報は下記表 1 のように四分類できる。話し手と聞き手と情報の関係を〈近〉または〈遠〉で示し、括弧の内の左側に話し手、右側に聞き手の情報との関係で表示すると、それぞれ A (近遠)、B (近近)、C (遠近) と D (遠遠) となる。

表 1 情報と縄張りの関係

		話し手のなわ張り	
		内 (近情報)	外 (遠情報)
聞き手の なわ張り	外 (遠情報)	A	D
	内 (近情報)	B	C

〈近〉情報の判断基準については、神尾 (2002) に従い、下記の四種類が挙げられている。(10) の基準を満たしていれば〈近〉情報となり、それに含まれない情報を〈遠〉情報とされる。

(10) なわ張り判断基準¹⁶

- 1) 内的直接経験を表す情報
- 2) 外的直接経験を表す情報
- 3) 自己の専門または熟達領域に関する情報
- 4) 自己の個人情報

3.2. 「嘛 (ma)」でマークされる情報の距離関係

CJCS コーパスで収集された「嘛 (ma)」の例文に情報のなわ張り判断基準 (10) を適用し、表 1 に示された 4 つのタイプで分類すると以下の表にまとめられる。

表 2 情報の縄張り分布

	A (近遠)		B (近近)		C (遠近)		D (遠遠)		合計	
	例数	割合	例数	割合	例数	割合	例数	割合	例数	割合
「嘛 (ma)」 の用例	102	52.8%	86	44.6%	3	1.6%	2	1%	193	100%

表 2 に示されるように、話し手に〈近〉である情報が「嘛 (ma)」とよく共起し、A (近遠) と B (近近) を合わせると 97.4% もあった。そのうち A (近遠) タイプが 52.8% であり、B (近近) タイプの 44.6% よりはやや多かった。それに対して話し手に〈遠〉と判断される情報が「嘛 (ma)」と共起しにくく、いずれも 2% 未満である。木村・森山 (1997) によれば、中国語語気助詞「嘛 (ma)」は、「命題が真であることを話し手自身が確と認定した上で、なお聞き手にも同様の認定を積極的に求めることを示す文末助詞で」あり、「確定情報文に聞き手情報依存の意味を付与する形式」の一つである。確かに話し手に近い情報であれば、

¹⁶ 神尾・高見 (1998) によれば、「内的直接体験」とは、話し手または聞き手の内部において感じられる痛みや吐き気などの感覚、喜びや悲しみなどの情緒、記憶や信念、判断などの心理作用などを指している。それに対して、「外的直接体験」とは、五感を通じて外部から認識される直接体験である。

話し手が「命題が真であることを確かと認定」しやすいが、「聞き手に同様の認定を積極的に求める」という点に関しては、上記の割合からは読み取れない。一方、木村・森山 (1997) にある「認定を強く迫る（つまり確信を強いる）聞き手依存の形式」との言い方は強すぎると井上・黄 (2017) が指摘する。彼らによれば「“P嘛”は『ここは私の言うとおりに P と考えれば十分だ (P 以外は不要)』という話し手の認識を述べる表現」であり、「『P と考えなければならない (P 以外は不可) とまでは述べていない』」。本稿は、この聞き手に情報提示するときの話し手の認識を前後の文脈との関連で考えたい。

4. まとめと考察

CJCS コーパスから収集した語気助詞「嘛 (ma)」でマークされる例文の特徴は以下のよう
にまとめられる。

1) 必ずしも接続表現を必要としないが、広義の因果関係を表す例が多かった。「因果関係」には「動的」な物理的因果関係と、推論における「理由と帰結」という「静的」な関係が含まれる。Uno (2009) の理由文の分析によれば、「動的」な解釈と「静的」な解釈の両方が可能な場合もある¹⁷。理由文が表す関係の述べ方の主観性、関係そのものの主観性を測るのに、「話者関与度スケール (Speaker Involvement Scale)」がある。例えば、「空が青いから悲しい」に見出される関係性は物理的因果関係と呼び難く、話者が空の青さと悲しさを結び付けることによって成立している。このような文は話者関与度が高いとされる。「嘛 (ma)」でマークされる例文の述語に注目すると、以下のような構文が多いことがわかる。

(11) 頻出の構文形式

- a) 「是 (だ)」を用いた文：「(【名詞句】) 是…+嘛」(60)
 「(【名詞句】) (就) 是【名詞句】+嘛」(29)/ 「【名詞句】是【動詞述語/形容詞述語】+嘛」
 (21)/ 「【名詞句】是【動詞述語/形容詞述語】的+嘛」(9)/ 「就是【動詞述語/形容詞述語】+嘛」
 (1)
- b) 一名詞句文：「【名詞句】+嘛」(14)

呂 (1980) によれば、これらの構文における「是 (だ)」の基本的な役割は確認・認定を表すことであり、話し手の認識が関わると言える。一名詞句文は感嘆など話し手の感情的経験を伝えることが多いとされ、その場合には明らかに話し手の関与が認められる。例えば、村のことを小説にして発表した人に対して、書かれた人物自分がその小説を読めたら怒るよと冗談半分からかう村人に以下のように言い返す。「だって小説じゃん (小説だか

¹⁷ Uno (2009) によれば、「秋だから葉が色づく」には二つの解釈が可能である。「秋」であることが原因で「葉が色づく」という物理的因果関係と、「秋」の知識を想起しそのうちの一つの側面として「葉が色づく」と捉えるという「連想関係」がある。このような連想の個別表現も「静的」と判断される。Uno (2009) はそれぞれを「動的理由文」、「静的理由文」と呼んでいる。

らいいじゃない)」という意味を表現するが、この場合には「嘛 (ma)」が必須である。

(12) 小説 嘛……

小説 ma

(小説じゃないか。)

語気助詞「嘛 (ma)」は静的な因果関係を提示することが多く、その因果関係の成立に対する話し手の関与度が高いことを示すと考えられる。

2) 話し手に〈近〉と判断される情報、つまり話し手のなわ張りに入る情報が圧倒的に多く、聞き手と情報の距離（聞き手のなわ張り）は「嘛 (ma)」の使用に関与しないように見える。情報が話し手に近ければ「嘛 (ma)」をつけやすく、「嘛 (ma)」で示される情報が話し手に近いものであると判断されやすいとも考えられる。そのため話し手から遠い情報であっても、「嘛 (ma)」をつけることで〈近〉情報であるかのように提示することが可能である。例えば、聞き手に近い情報である聞き手の内的直接経験の「頭が痛い」との情報を聞き手に伝える例を考えると、以下のように疑問文にしないと不自然に感じられる。

(13)? 你 头 疼。

あなた 頭 痛い

(?あなたは頭が痛い。)

(13') 你头疼?

(あなたは頭が痛い?)

明らかにある人のなわなりに属する情報をその人本人に伝えることが意味をなさないため、その人に関する情報をその人に疑問文で確かめるのは普通である。しかし、「嘛 (ma)」をつけることで自然な文になりうる。ただし、この場合の「頭が痛い」という聞き手のなわなりに属する情報は、話し手も把握しているつまり話し手にも〈近〉であるように聞こえ、前後の文脈と関連づけて発話しているように考えられる。例えば、聞き手に「帰って休んだ方が良い」とアドバイスする場面において、「なんで?」と聞かれると、話し手が (13') のように答えることが想像できる。

(13'') 你头疼嘛。

(だって頭痛いんじゃないか。)

上記の 1) と 2) でわかるように、語気助詞「嘛 (ma)」が広義の因果関係を提示する場合に、話し手の関与度が高く、聞き手と情報の関係は重要視されていないようである。「嘛

「(ma)」は「前後文脈と主に因果関係で結び付けられることを主観的に示す」マーカーであると考えられる。話し手が「前後文脈との因果関係の成立」を主観的に捉えることを語気助詞「嘛 (ma)」で表記し、情報伝達というよりその関係自体に聞き手の注意を向けされるのである。そのため「嘛 (ma)」でマークされる因果関係のほとんどは「静的」なもので、聞き手が確実に知っている情報であっても、知らない情報であっても「嘛 (ma)」が使え、情報と聞き手との距離は無関係である。

5. 今後の課題

前述したように、コーパスからとった 193 例のうち、因果関係と捉えられるのは 159 例であり、因果関係と判断しにくいものが 34 例あった。

その因果関係表示の 159 例のうち、「嘛 (ma)」が「理由」をマークするもの¹⁸が 122 例あるのに対して、「帰結」をマークするのは 37 例しかなかった。さらに「理由」がマークされる 122 例のうち、18 例の「帰結」が省略され、36 例が「理由」と「帰結」の位置が逆転するものであった。「嘛 (ma)」が「帰結」をマークする 37 例には、「理由」と「帰結」の位置が逆転する例が 7 例あったが、そのうち「理由」が省略されるものは一例もなかった。

因果と関連付けにくい 34 例には (14) のような特徴が見られる。

(14) 因果関係以外の例¹⁹

a. 相手の意見との不一致を示すもの²⁰ (10); b. 仮定を表すもの (8); c. 会話現場の状況についてコメントするもの (7); d. 相手の疑問に答えるもの (5); e. 引用表現が含まれるもの (4)

例としては (15) から (19) が挙げられる。例えば、範さんに不満を感じる周さんが、範さんに親しかった村の子供を怒鳴る。その行為を秦さんがとめて以下のように話すと、周さんが皮肉な口調でコメントを付け加える。

(15) 秦文吉：小孩子 把 范大叔 当成 区里的 官了， 区里
秦さん：子供 (介詞) 範おじさん 思い込む 区 の 役人 区
的 官 当然 比 村长 高一头 啦
の 役人 当然 より 村長 一枚上 la
周士勤：他 是 区里 火头军的 官 嘛，辖管着 锅碗瓢勺。

¹⁸ 前後文脈にある「因果関係」を示す場合に、「因为 (because)」、「所以 (so)」のような中国語の接続表現を用いることが一般的であるが、語気助詞「嘛 (ma)」は必須要素ではなく有標の形と考える。

¹⁹ 括弧に例の数を表記する。

²⁰ 相手の話を否定しようとするものと、皮肉な口調で相手の話に「同意」を示すことで否定的な態度を表すものがあるが、例 (15) は後者にあたる。

王 瓊

周さん：彼 だ 区 飯炊き の 役人 ma 統括している 調理器具
(秦さん：あれは范さんを区の役人だと思ってんだよ。区の役人なら村長より一枚上だから。
周さん：ナベのケツをたたく飯炊き役人さ。)

自分の対応の仕方はまともであり、からかっているつもりはないと言った周さんが以下のように続ける。

(16) 当然 啦， 你 要 认为 这 是 开心 嘛，
当然 la あなた つもり 考える これ だ からかう ma
也 可以。
も 良い

(もちろん、からかいだと思いたければ、それでもかまわないけどね。)

王先生一家がレストランで食べている時に、彼の教え子がたまたまこのレストランに入り、先生に気づいて挨拶しにきた場面である。その教え子が立ち去ると、妻が食べながら王先生に言う。

(17) 你 这 学生 还 很 懂 礼貌 嘛！
あなた の 学生 まだ とても わかる 礼儀 ma
(あの学生さん礼儀正しいわねえ。)

畑が山の頂上にあることにびっくりして、村を案内してくれる農民とのやりとりで、肥料のことについて以下のような会話が行われる。

(18) 我： 怎么 送？
私 どうやって 送る
老乡： 人 担 哩 嘛。
田舎者 人 担ぐ li ma
(私：どうやって運ぶんですか。)
田舎者：人が担ぐだ。)

(19) は飲みながら世間話しているときに、村の劉さん一家が直面する難局、つまりいろいろな事情で働ける人がおらず、このままでは生活が維持できなくなるという状況についてコメントする発言である。

(19) 我 没 跟 你 说 嘛， 有 穷 有 富

私 ない と あなた いう ma ある 貧乏人 ある 金持ち
 才 成 世道, 没 穷 没 富 天塌地裂日头灭。
 やっとなる 世の中 ない 貧乏人 ない 金持ち 万事休す
 (おめえにゃ言わなかったかな、この世の中、貧乏人と金持で成り立ってんだ。それがなくなったらこの世はおしめえよ。)

以上からわかるように、「嘛 (ma)」は因果関係の「理由」をマークすることが圧倒的に多く、「帰結」をマークしても「理由」の提示が普通は必要である。また、因果関係の提示以外の例のうち、「仮定」を表す b は「因果関係」に近いが、a、c、d、e をどのように扱うのかについては考えなければならない。これらの解釈を今後の課題にしたい。

参考文献

- 井上優・黄麗華 (2017) 「中国語の文末助詞“嘛”の意味分析」『中日言語研究論叢: 楊凱栄教授還暦記念論文集』朝日出版社
- 岩畑貴弘 (2010) 「『情報のなわ張り理論』再考」『人文研究』, 172号, 55-79
- 王瓊 (2018) 「中国語語気助詞『嘛 (ma)』の考察—情報の縄張り理論の観点から」『日本中国語学会第68回全国大会予稿集』, 229-232
- 神尾昭雄 (1990) 『情報のなわ張り理論: 言語の機能的分析』大修館書店
- 神尾昭雄・高見健一 (1998) 『談話と情報構造』研究社出版
- 神尾昭雄 (2002) 『続・情報のなわ張り理論』大修館書店
- 木村英樹・森山卓郎 (1997) 「聞き手情報配慮と文末形式—日中両語を対照して—」『日本語と中国語の対照研究論文集』くろしお出版
- 香坂順一 (1982) 『現代中国語辞典』光生館
- 張斌 (2010) 『現代漢語描写語法』商務印書館
- 野田寛達 (2013) 「現代汉语程度副詞の機能分析及其分類—基于信息领属理论」『現代中国語研究』, 15号, 72-82
- 楊達 (1994) 「中国語対話文における語用論的研究—情報のなわ張り理論を通じて—」『成城文藝』, 146号, 22-41
- 呂叔湘 (主編) (1980) 『現代漢語八百詞』商務印書館 (菱沼透・牛島徳次 (監訳) (2003) 『中国語文法用例辞典』東方書店)
- Chao, Yuen Ren. (1968) *A Grammar of Spoken Chinese*, University of California Press.
- Uno, Ryoko. (2009). *Detecting and Sharing Perspectives Using Causals in Japanese*. Hituzi Syobo Publishing.

Causal Relations Expressed by the Utterance Particle *ma* (嘛): A Study Based on the Theory of Territory of Information

WANG Qiong

Keywords: utterance particles, corpus, the theory of territory of information, causal relations

Abstract

This paper attempts to explain the meaning and use of the Chinese utterance particle *ma* (嘛) from the perspective of what is known as the theory of territory of information. The data includes Chinese conversational sentences from novels and their Japanese translations, collected from a corpus and classified by their Japanese sentence-final forms used as translations of *ma* (嘛). Not only the Japanese translations but also about 80% of the original Chinese sentences marked by *ma* (嘛) are found to pertain to causal relations in the broad sense of the term. Based on the theory of territory of information, the data is classified into four types to determine the correlative distance of the information marked by the utterance particle *ma* (嘛). The result strongly suggests that *ma* (嘛) predominantly marks information close to the speaker and that the distance between the hearer and the information is irrelevant to the use of *ma* (嘛). Thus with the help of *ma* (嘛), even information considered to be far can be presented as if it were close.

Based on these findings, this paper argues that by using *ma* (嘛), the speaker presents the information in question as being causally linked to the context. Furthermore, it is suggested that the causal connection marked by *ma* (嘛) is static, in the sense that it is created by the speaker as the subject of conception.

(オウ・ケイ 東京大学大学院言語学研究室)